

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社ふぁみりい
(ユニット名)	グループホームふぁみりい
所在地 (県・市町村名)	長崎県大村市
記入者名 (管理者)	吉田 美保子
記入日	平成 19年 10月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	入居者それぞれ9名にあわせた支援し、その人らしく明るく楽しく毎日を笑顔で生活してもらいたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	今後も理念の実現に向け、日々努力し向上していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	今後、時にはホーム頼りに理念を掲載し、再確認してもらうことで、より御家族の理解を得られると思われれます。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	2ヶ月/回の運営推進会議でも町内会長・民生委員さんへの毎月の活動報告もしており、住民に対して町内会長・民生委員さんよりホームの現状等も話して下さっているようですごく心強いです。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	今後も近隣の保育園の慰問、中高生の実習受け入れを積極的にアピールしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は、休止中であるが、市内の病院側に依頼し、機能回復に向けた支援として、理学療法士に訪問してもらい、ボランティアリハビリとして半年間(月1回)訪問リハビリを行った。		現在は、6ヶ月の依頼期間が終了しているが、入居者の身体状況も変化しつつあるため、再度、ボランティアリハビリをお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果にこだわる事はなく、当ホームなりに必要に応じた場合は、全体会議等にて改善し、日々の実践につなげるよう努力している。	○	全職員が日々のケアを「心」から接してくれ、「質の向上」はもちろんであるが、心からの9名の入居者の介護に感謝している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、2ヶ月の活動報告・予定を報告し、その事に対して運営委員の方より意見を頂いて、サービスの向上に活かしている。	○	今後も2ヶ月に1回の運営推進会議を定期的に行い、地域・御家族、行政側よりアドバイスを頂きたい。また、職員にも交代で参加してもらい、個人的な意見を発表してもらいたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回開催される在宅ケアセミナーの参加、または、市内グループホームスタッフで作り上げた各駅停車(研修会)にも参加、勉強している。	○	今後も職員が時間外でもあるため、無理のないよう継続してもらいたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実践者研修受講者職員は7名おり、研修でも勉強しており知識としては習得している。現在、活用されている入居者1名おられ、実践的に多々勉強させられている。	○	日々、多忙な業務の中ではあるが、テキスト等を中心に再度学び確認してもらえればと思う。権利擁護について、講義をスタッフにしてもらえればと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本的に職員全員が「虐待」という言葉に絶対的にしてはいけない事と周知してくれている。管理者として、細心の注意は払っているが、絶対に「虐待」のない支援をしていきたい。	○	「虐待」絶対的にしてはいけない事と全職員に周知している。管理者として、私は職員を信じています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約的には、御家族様にも時間をとってもらい、契約書・重要事項説明書・自己外部説明・個人情報の説明を行い、書面にて同意書を頂いている。また、退去時に関しても入居者の現状を話し、御家族理解された中で次の入居先を探させてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>今後も家族の気持ちを良く理解し、継続していきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>3ヶ月毎のケアプラン説明時に、御家族様へクレーム・相談・苦情との順で何かないか問いかけている。また、たまに入居者受診時に同行した職員にクレーム等あった場合には、管理者へ報告あり。管理者より、謝罪し経過報告させてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>9名の入居者中、一番短い方で1年となり、ホーム側・御家族が馴れ合いにならないよう、信頼関係を深め、軽い気持ちでささいなことでも気軽に話してもらいたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3ヶ月毎のケアプランにて、暮らしぶりや健康状態の説明、毎月の入居費の入金時、金銭管理・残金の説明サインをもらっている。ホーム便りにて、近況報告、職員の紹介をさせてもらっている。緊急的な病状の変化には、直接的に管理者か介護支援専門員より電話にて、受診状況等を報告している。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していきたい。また、キーパーソンに限らず近隣の御家族、遠方の御家族には、ホーム便りにて近況報告させてもらいたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関入り口に苦情相談組織図(名前・電話番号)を提示している。入居契約時にも御家族へ組織図を渡している。</p>	<p>○</p> <p>管理者、介護支援専門員に限らず、御家族が職員誰にでも遠慮なく相談できるような深い関係づくりを努めたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者として、自ら職員に声かけ相談をする事もあり、その事にて、反映を向けている。また、個人的に意見を提案してもらうこともあり、気づかない自分にプラスのパワーをもらっている。</p>	<p>○</p> <p>管理者に遠慮することなく、今後も職員の意見(入居者の代弁者)を聞き入れたいです。気づかない面が多々あると思われる。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状況に応じて、勤務体制を整えている。緊急性の場合には、職員より自ら出勤してくれ、安定したホーム作りに貸してもらっている。</p>	<p>○</p> <p>今後も入居者の状況や要望により、柔軟に対応できるよう調節していきたい。緊急時、職員が状況判断し、公休変更してくれている。心からありがたい職員ばかりです。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>当ホームでは移動はない。休職・離職時には、昼食時など入居者全員が、リビングにいらっしゃる頃に、数日前または状況に応じ、当日管理者より話しをし、最小限にダメージを防いでいる。</p>	<p>○</p> <p>当ホームは移動がないメリットがあり、日々、心からの支援向上に職員に恵まれています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修等は、受講後、レポートを含め全体会議等にて報告してもらっている。</p>	<p>○</p> <p>当ホームには、スーパーバイザー的なアドバイスができる職員がいないかもしれないが、日々お互いに意見交換しながら自分達なりの向上に努めている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大村市グループホーム連絡協議会にて相互評価を受け入れ助言等してもらっている。管理者も相互評価委員として、市内グループホームを訪問させてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>大村市グループホーム協議会研修部より、職員の他ホーム研修を計画。研修により、他ホームの勉強・サービスの向上を期待する。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者として、日々勤務する職員の表情・行動等を見て声かけ、状況に応じて話しを聞いて本人のストレス悩みを乗っているつもりである。</p>	<p>○</p> <p>公休日や夜など交流をもったり、公休日にはプライベートな公休をとってもらいリフレッシュしてもらっている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者も日々現場介護従事者として勤務しており、業務の多忙の悩みを把握しているつもりである。感謝の言葉かけを常にかけて、明るく楽しく働けるよう配慮はしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も職員がストレスを溜め込まないよう目配り気配りをし、ゆとりのある介護に努めてもらいたい。それが「心」の介護につながると思われる。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時、家族本人より、生活歴を細々と聞き出し、職員にも把握してもらい、入居時は、些細なこと・行動・しぐさ・言動を介護記録に記載してもらっている。入居者に対して、入居者に応じた時間的ペースを図る。短時間ずつでも雑談の時間を作る。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談→申し込み→面談→契約の流れの段階で御家族の思いを良く聞き入れている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	家族相談来設時、在宅介護中等に大使邸は、今の介護サービスとして 助言させてもらっている。	○	来設される御家族の方は、色んな悩みで来られま す。その方々の心を受け止め、今後も助言できる事 があれば助言させて頂きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	事前の入居相談等で把握した情報を基に、職員全員に把握してもら い、入居後も御家族・御本人より一番の楽しみ又は触れてはいけない 事を聞き出し、入居してもらっている。御家族へも入居後よりの積極的 な面会をお願いしている。	○	入居時には、御家族からの沢山の情報を常々頂き たいし環境の変化に一番混乱されているのは御本 人なので、入居時程、面会を多く重ねてもらえれば と思う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員・入居者、喜怒哀楽を共にすることは多々あり、入居者より、私た ち職員、教えられることは数え切れない程あり、個別的に今後も1対1 ゆっくり話せる時間を大切にしていきたい。	○	職員が支援している立場ですが、入居者が人生の 大先輩です。沢山の事を人間として、勉強させても らっています。とても、有り難いことです。ありがとう ございます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	御家族面会時、ケアプラン説明等、御家族に職員に話された言葉「喜 怒哀楽」をそのままの言葉で伝えている。	○	介護記録にもそのままの言葉を記載してもらい、ケ アプランにつなげ、御家族にもより良く理解してもら えるように継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	御家族へも一泊旅行へのお誘いをしたり、季節行事の外出の声かけも 行っている。	○	外出、旅行と御家族の参加も徐々に増えつつあり、 今後も入居者・御家族と連絡をしいながら、より良 い支援を続けていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	入居前よりのかかりつけ医を主治医として、定期的に受診している。ま た、整髪も入居前の美容院を利用したり、入居者数名にて利用してい る。入居者同士一緒にカットパ ^マ する仲間意識を深めている。	○	理・美容に関しては、今後も入居者同士のより良い 関係を深めていきたい。医療機関に関しても同様と 思われる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている	入居者同士が支え合えるよう、さりげなく職員が場面作りに入り、ホーム 内の人間関係形成に援助している。	○	食事介助をしてくださったり、食器洗い、洗濯ものた たみ等相談。それぞれに入居者同士の交流あり。 今後も大切に支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	市内病院に入院された際には、不定期ではあるが面会に行き、病院側、前入居者の様子をスタッフと状況を聞かせてもらっている。	○	今後、ホームを退所されて縁が切れることはない。退所先へのホーム側の面会の了解を得て、個人的な公休日の面会を許可してもらっている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、声かけ把握に努めており、日々の介護記録の中で、入居者の言動や行動を再度確認し、ケアプランに活かしている。	○	日々の介護記録を読み直し、アセスメントにこだわることなく、日々の生活の状態をアセスメントするよう広い視野を見つめている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者より、その人の生活歴を聞き出し、入居後も個性を生かし、役割分担、自信につなげている。又は、介護計画説明時にも御家族より入居者聞き漏らした情報を伝えてもらっている。	○	今後も御家族との信頼関係を深め、情報収集等を伝えてもらいたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で出来そうな方には、職員側より声かけしたり、その人なりの生活リズムを把握し出来ること一緒にやれば出来ることを把握し、声かけ支援を行っている。	○	入居者の総合的なレベルを把握し、一人一人の力が発揮出来るよう今後も支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自分らしく暮らせるよう、担当職員・御本人・御家族の要望を聞き入れ、介護計画に活かしている。	○	今後も継続していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	緊急的な介護計画の見直しはほとんどないが、職員の統一した介護により支援している。内容については、直接御家族へ状況報告、また3ヶ月毎のケアプラン変更時にも取り入れている。	○	日々、状況の変化により統一した介護支援実行中。今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化は、個々の介護記録に記載している。また、介護記録を基に介護計画を見直し、評価をしている。	○	漫然とした介護記録をするのではなく、入居者のケアと個別状況を把握しながら職員の気づきや工夫記入するよう努力している。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の御家族と話し合いのもと、定期的な自宅外出や面会、年末年始の外出・外泊など積極的に努めている。	○	御家族の家庭状況を把握しながら、自宅とのつながりを続けていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の趣味を取り入れ、近隣のお祭りには参加している。ボランティアの受け入れも積極的に受け入れ交流を深めている。	○	より良い関係が築きあげていけるよう、今後もニーズにあわせた支援を随時検討していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用するまでには、至っていないが必要に応じてケアマネジャー・サービス事業者と話し合い必要と思われる時には相談助言をもらいたい。	○	必要に応じた連携を図り、支援していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	直接的な包括支援センターとの交流はないが、必要時、積極的に働きかけ相談していきたい。	○	必要時、適切なアドバイスをもらい協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者9名それぞれにかかりつけ医との連携も出来ている。また、緊急時、入院等にも、その都度、状況報告している。今後も個々にあわせた医療が受けられるよう支援していきたい。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームの協力医療機関として、精神科にお願いしており、必要に応じて外来看護師・生活相談員・医師に状況報告相談している。今後も個々にあわせた適切な医療を受け入れてもらえるよう努力している。	○	定期的な外来受診時、日々の生活を報告し、病院側との連携を深めていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者(看護職員)介護支援専門員(看護師)の資格を有し、日々の健康管理・状況変化には緊急に対応出来るよう努めている。	○	今後も継続していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐため、医師・御家族と話し合う機会を多く持ち、最小限の入院にて、その後は住み慣れたホーム環境のもとに外来通院につなげている。	○	今後も継続していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム側が対応可能な最大のケアをおくりつつ、病院側の意向もふまえ、御本人・御家族との話し合いを重ね、御本人の命を大切にさせよう、重度化した場合には長期療養の病院へ入院してもらっている。	○	今後もホーム側で介護の限界を理解してもらった上で、医療機関への入院を勧めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	御本人・御家族の意向も踏まえ、主治医・職員と連携を取りながら、入居者が安心して終末期を迎えられるような連携を図っている。また、急変時には、近隣にある長崎医療センターにて対応してもらっている。	○	今後も継続していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所へ移られる時は、退去時サマリーを作成しお渡しすると共に情報交換を行っている。新事業所へは、御家族の了解を得て、面会にいかにしてもらっている。	○	定期的な面会は出来ないが、時間を見て、縁が切れないようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	カルテ等の個人記録の個人情報は、ホーム内での管理を徹底し、特別な場合を除き、持ち出し禁止をしている。ホーム内での対応も言葉かけなど一人の人間として尊重し、プライバシーを損なわない対応に心がけている。	○ 今後も徹底して継続していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側の一方的な押しつけでなく、入居者が自分で決められるような言葉かけ対応をしている。意思表示が困難な入居者に対しては、表情を読み取ったりイメージを描いた説明をしている。	○ 入居者9名にあった自己決定ができるよう支援している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランにも援助項目に挙げているが、9名がそれぞれに自分なりの楽しみを活かし、日々楽しく笑顔で充実した1日を過ごすよう全てではないが、なるべく希望に沿えるよう支援している。	○ 一日の流れの中で、ゆっくりとその人らしく楽しく充実した日々を送ってもらいたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴前の着替えは、入居者と一緒を選んだり、入浴前に洋服は「この洋服でよいか」確認している。理美容院は、本人行きつけの店にお連れしている。最近では、入居者同士で同じ店を希望し、一緒に美容院外出を希望される。	○ ホーム側の決めつけではなく、その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんでもらいたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の役割・自分のできることは、積極的に活動してもらっている。食器洗い・洗濯物たたみ・盛りつけなど、場面に応じて職員側より声かけをしている。	○ できることはなるべく声かけし、自分らしく家族の一員として生活を支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙については、ホーム側管理の下、所定の場所で喫煙してもらっている。おやつ等の嗜好品も状況にあわせて、日々日常的に楽しめるよう支援している。飲酒に関しても、御家族の同意のもと、本人の要求があれば適度な量を勧めている。	○ 今後も御本人が好まれる物を一緒に買い物に行ったりしながら継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	業務日誌にも排尿チェックをつけており、時間おきの排尿誘導、排尿パターンをつかみ、不快感をなくし気持ちよく排泄支援ができるよう支援している。なるべくオムツの使用を減らせるような支援を心がけている。	○	今後も継続していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、一日おきと職員側で決めさせてもらっているが、入浴希望者がおられる時は、入浴してもらっている。拒否される入居者には、無理な声かけは行わずタイミングを見計らったりしている。また、入浴後、入浴に不安のある入居者には、職員と一緒に入浴し、安心感を与え気持ちよく入浴できるよう支援を行っている。	○	入浴介助中、楽しい会話をする場になっている。時には、浴室より笑い声が響き渡る。入浴時間が、楽しいものになるよう支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別の疲労感を把握しており、入浴後、午睡など休息をとってもらっている。夜間不眠の入居者に対しては、何が原因かを理解し、補食をすすめたり、ゆっくりと話しをして気持ち良く睡眠ができるよう支援している。	○	常に状況・状態に応じた安眠・休息の支援を継続していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、得意分野では、その人の力を発揮してもらい、感謝の声かけを常に言っている。	○	食器洗い、飼い犬のえさやり等、それぞれが無理のない役割・楽しみとして日々継続できるよう支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいはホーム側で預らせてもらっている。御家族の同意があれば、小金は御本人が持たれている。買い物時、買い物代行時には、レシートと交換に御本人の財布よりお金を出してもらうことあり。	○	今後も継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節のお花見には、市内・市外へ行き、季節感を感じ取ってもらっている。その時には、弁当を持参したり、外食を楽しんでもらっている。	○	お花見見学等は、家族にも声かけ参加してもらっている。今後も家族の方にも声かけし、一緒に楽しみを増やしてもらいたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族の協力のもと、お墓参り等は積極的に行かれている。また、入居者が「○○○に行きたい。」と言われた時には、一泊旅行に出かけたりと、なるべく意向にそえるようにしている。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	仕事の都合上、面会が遠のいている御家族には、ホーム側より電話をかけ、御本人と直接話しをしてもらっている。また、入居者と信頼関係の深い職員の「声が聞きたい。会いたい。」等、話された時には、電話をかけている。	○	今後も継続していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、お茶・お菓子を出し、ゆっくりとくつろいでもらっている。面会時間の設定もしていないので、自由に面会に来てもらっている。職員も面会時、明るく笑顔で対応し、お帰りの際には、一緒に玄関に出てお見送りをしている。	○	面会時には、楽しい雰囲気の中で、居心地良く過ごせるように配慮していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時、身体拘束の研修会にも職員が徐々に参加し、拘束のないケアに取り組んでいる。病院より退院時、外科的処置中、創部をどうしても触れ再入院の心配があるケースについては、主治医の指示(文書有)を受けている。	○	今後も身体拘束のないケアに更に取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りのもと、入居者の状態・気分にて心理状況を把握することで、日中は鍵をかけず自由な暮らしを支援している。	○	今後も継続していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は連携を図りながら、入居者が今どこにいるか把握している。また、玄関を出て行く入居者がおられた場合には、その人と一緒に外出したり、庭先での行動を共にしている。	○	日中は玄関に鍵をかけることは、絶対ない。夜間、職員1名対応時のみ、玄関を施錠している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全ての危険物を取り除くのではなく、入居者の状況変化によっては、注意預かりを促している。薬・包丁類は、ホーム側が管理している。その他にも入居者の状況に応じて、危険物の取り扱いは、予測して管理することもある。	○	日々、入居者の心理状況を把握し、状況に応じた安全管理に努め、安全に過ごせるような支援を続けていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアル(連絡網)を作成している。事故報告書も作成し、その都度、家族にも報告している。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間等の急変時には、「まず、慌てない。」ということを常々職員に伝えており、管理者に連絡指示を受けた後は、自分なりにできる対応をするように指導している。また、119番通報等は、消防訓練も兼ね、職員全員徹底しつつある。	○	今後も急変時には、慌てず・焦らず・自分に自信を持った対応を続けてもらいたい。「現状維持」
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防・総合訓練を年2回実施。共に個別訓練も実施し、職員の向上にも努めている。運営推進会議でも実施日・内容を説明し、町内会長さんをはじめ、地域の方にもいつでも御協力していただけるよう体制をとっている。	○	今後も継続していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン説明時、御家族にも予想されるリスクをお伝えしている。職員側も日々状態把握しており、その人らしく自由な暮らしの継続支援に努めている。	○	今後も継続していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は日々入居者の生活状況を把握しており、多少でも生活状況の変化ある際には、管理者へ報告し、必要時病院受診などを行っている。	○	体調管理に努め、今後も早期発見し、迅速な対応につなげていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録(カルテ)に、服用している薬の名称・作用・副作用・服用回数などを記載した一覧表を綴じて、職員が周知している。	○	日々内服変化があるか、今後も内服薬に関する知識を深め、飼う実な服薬管理に努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表や個々の生活習慣や身体状況等から、入居者に応じた対応をしている。(排便の必要な入居者や薬で調節される入居者等)	○	今後も継続していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	日々の生活歴を理解した上で、食後の歯磨きの声かけや介助を行っている。その際、無理強いをしない(入居者へ心理的負担を与えないよう)よう心がけている。	○	今後も衛生的に支援していくことが大事だが、御本人の気持ちを大切に、状況に応じた清潔保持に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食日誌の項目にも3食の食事摂取を心がけている。現在、実行中である。	○	今後も継続していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては、御家族の同意のもと、11月までに予防接種が受けられるよう取り組んでいる。	○	インフルエンザに関しては、タミフルの使用不可が問題となるため、罹患した可能性がある場合は、早期受診し重度化しないよう今後も支援していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・水まわりの清潔には、日々努めている。まな板・ふきん等の漂白・消毒面は不定期ではあるが、衛生管理に努めている。	○	食中毒予防に今後も積極的な情報収集し徹底していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場入り口にホームの飼い犬「ポコ」がおり、毎日散歩やウォーキングをしている地域の方達に声をかけてもらっている。また、ホームの庭には、レンガ調のガーデニングを設け、季節の花々を見て、季節感を味わってもらっている。	○	今後も自由にホームの庭に出てもらい、外の空気を吸い、季節の花々を見て、季節感を味わってもらいたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の花瓶には、季節の花を飾っている。毎日、居心地の良い生活が送れるように食器洗いの音や調理時の台所での不快な音を出さないよう配慮している。	○	今後も入居者の生活感や季節感を取り入れ、日々安定した生活が送れるように支援していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファや居間にソファを置いている。さり気なく入居者同士が廊下に集まり、楽しい会話が見受けられる。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居見学時より、居室の使い方は御本人がなるべく今まで使っていた家具を持ち込んでもらうよう説明しており、写真等も馴染みの物を持ち込んでもらい、居心地良く生活できるような支援を行っている。	○	その人らしい個性のある居室作りに努めている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室には、空気清浄機をつけている。トイレなど気になる臭いには、消臭剤で悪臭が出ないよう工夫をしている。居室の冷暖房もこまめに巡回し、適温に調節している。	○	今後も継続していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器棚をカウンター式にしており、カウンターを利用して、入居者に食事の盛りつけや下ごしらえ(野菜きり)を手伝ってもらっている。	○	随時、声かけながら入居者と一緒に配膳などを一緒に楽しみたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々、御本人の能力を活かした中で、声かけをしながら自分にできる能力を発揮してもらいたい。	○	今後も継続していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外庭にレンガ調の花壇があり、季節に応じた花々を植えている。ベンチも設置しており、ベンチに座り、花に囲まれ、外気浴や、時にはおやつを食べて楽しい時間をすごしている。	○	季節の花々は、今後も自然の中で触れ合い、より良い環境作りに努めていきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日を入居者職員が明るく楽しく笑って一日を過ごしてもらっている。みんなが家族の一員であること！！
「とっても大切に自慢したいもの そして このみんなが宝物」